

富岡地域づくり 協議会だより



第30号

令和6年4月22日

広報委員会

<https://www.town-tomioka.click/>

富岡地区ウォークラリー大会が開催されました

令和6年3月9日（土）8時30分より、富岡まちづくりセンター第3駐車場を発着点として、富岡地区ウォークラリー大会が開催されました。



本事業も今回で10回を数えることになりました。実施すればする分だけ回数が増え重なり、単純に今回が10回目だということもできます。この10回を記念すべき数字と思われる人もいるかもしれませんが、単に通過点だと思われる人もいます。各々のひとの想いであって、それはそれでいいのかもしれません。

少なくとも、本事業の運営・実施に関わって準備から当日の様々な分担に関わってくださりご尽力いただいたスタッフの皆さん、そして参加いただいた多くの方々、また、協賛いただいた企業及び団体等のおかげでここまで継続できたということも間違いのないことだと思います。すなわち、多くのひとの支えがここにあったということです。新型コロナウイルスの感染拡大防止等々により、中止を検討せざるを得ない状況にあったこと等を含めよくここまで継続できた感慨にふけることもありかなと思います。

さて、今回も天気にも恵まれて、たくさんの元気な歩みがみられました。特別なイベント故に、特別な歩みになります。各個がふだん行っている散歩とは意を異にするウォークラリーというプログラムに基づく集会です。

速さを競うわけではないので誰もが参加しやすいものです。歩く楽しさをもとに、町の文化や自然を発見できる野外プログラムとしての位置づけができます。つまり、健康的なコミュニケーションイベントともいえるものでもあります。とはいえ、本事業では7km及び11kmを歩く距離としているので、かなりの運動

量になります。これ故、体力づくりのひとつといえるかもしれません。但し、今回は前日の降雪によるコースコンディション不良のため、参加者全員が7kmを歩きました。

行程には、梅・桃・こぶし・早咲きの桜・蠟梅・ライラック・チューリップ・スイセン・レンギョウ・フキ等々の色とりどりの花が咲き、みるひとの心を癒してくれました。小鳥の鳴き声や、木々のさざめき、小川のせせらぎ等々が、歩くひとの背中を後押ししてくれるように感じられました。今年も富士山の雄姿がはっきりと見え、歩くひとに勇気を与えてくれているようでした。

ところで、今年は4年ぶりに豚汁・お汁粉が振る舞われ、焼だんごの販売もありました。歩き終わった参加者の楽しみも倍加したのではと思います。例年好評な抽選会の方もお楽しみいただけたかと思います。地元野菜・商品券・入浴券やら豪華景品等々と、当たったことの驚愕は味わえたかもしれません。この景品等を提供いただきました、個人・事業所・企業・店舗等の皆さん、本当に有り難うございました。有効に使わせていただきました。

結びに、富岡地区ウォークラリーの開催にあたり、運営及び実施に関わっていただきました実行委員及びスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。衷心より感謝いたします。

二十歳のつどいが開催されました

令和6年1月8日（月）10時30分より、富岡まちづくりセンターホールにて、「富岡地区二十歳のつどい」が開催されました。



富岡地区二十歳のつどい実行委員会の主催によるものです。

暦の上で「成人の日」と表記されている「国民の祝日に関する法律」に定められている祝日の一つです。「大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝いほめます」ことをその趣旨とするもので

す。大人になると、新たな権利や責任も伴ってきます。その喜びや重みを成人を迎える若者と回りで支える人々でかみしめる大切な日でもあります。



日本の古い儀式である「元服（げんぷく）」や「裳着（もぎ）」が原型で、それに代わるものだそうです。両方とも、男子及び女子を一人前の大人と認める儀式・儀礼のことです。元服の儀を新年最初の満月に行う習慣があり、それに由来して、1月15日が成人の日になったという説があります。この日が小正月だったこともその旨のひとつだそうです。旧暦の話のことで、現代の暦では1月15日が必ずしも満月とは限らず、該当しなくなりました。

加えて、2000年の祝日法改正により、成人の日は「1月の第2月曜日」と改められ、指定日でもなくなりました。いわゆる「ハッピーマンデー」制度によるものです。



近年、成人が18歳になったという法改正もあって、不整合のために名称も変更になりました。「成人式」「二十歳のつどい」いずれにせよ、おめでたい日には変わりありません。さて、その「二十歳のつどい」が、好天にも恵まれて1月8日に行われました。大勢の来賓及び各自治会の社会教育部長さんの参加と協力を得て、その式典も盛会裏に行われま

した。今年は例年以上の二十歳の皆さんの参加者数を数え、これをみてもコロナ等の感染症が遠のいてくれたかなという実感を持つことができました。

今回はご来賓のあいさつも頂くことができました。中学校時代の恩師の参加もあって、二十歳の参加者の中には、懐古の表情を浮かべた人々もたくさんみうけられました。

実行委員が中心になって進行したつどいの会も和気藹々のうちに実施されました。久しぶりに一堂にて顔を合わせる機会があるということは意義あることかなと思いますし、大事なことかなと思います。今後の交友にも影響し、また繋がるものと思います。結びに、本会の実施にあたりご尽力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

<編集後記>

わすれかけていた しあわせ
あなたにも わけてあげたい

シモンズのあの澄んだ歌声が聞こえてくるようです。

「スコットランドの伝統のおいしさ」のフレーズと共に浮かんでくる『チェルシー』が今年3月中に販売停止になるようです。一時は25億円の売上を誇っていたものが、「収益の低下」を理由にこうした結論に至ったそうです。これが店頭からなくなってしまうのは寂しい気がします。

ところで、「明治チェルシーの唄」（作詞・安井かずみ、作曲・小林亜星）は、シモンズをはじめ、ガロ、パドロ&カプリシャス、南沙織、サーカス、八神純子、あみん、アグネス・チャン、PUFFY、CHEMISTRY・・・等によって歌われました。これだけ多くの名だたる歌手によって歌われたことに驚きを禁じ得ません。

「CMの歴史の中でも、誰もが口ずさめる親しみやすいメロディー」「時代を超えて多くのアーティストによって歌い継がれてきた名曲」等々と評されるこの曲は、きっと多くの人々の記憶に永く残るものと思われま